

1 実践発表 浜松市立江南中学校 教諭 亀久保裕之(外国人拠点校指導員)

○ 江南教室での取組～母語理解を肯定した日本語指導～

江南教室とは	
<b>目的</b> 中学生年齢で初めての日本の学校に就学する生徒の在籍校への円滑な適応	<b>指導体制</b> 就学後10週間(週4日) 1日5時間 学校生活適応指導 日本語指導 教科の基礎的な補習



<実践事例>

★調べ学習	母語で検索→日本語に翻訳する。 日本語 Jump テキストを活用しながら Jam board でまとめる。
★スピーチ作成	母語で作成→Google 翻訳を使って日本語に翻訳。
★数学	文章題の写真をアップロードして翻訳、 母語で計算を解く。
★算数	児童生徒の実態に合わせた先行学習 →先に江南教室で学習したことにより、在籍校での学習への理解を助ける。



- ・ **母語の有効活用** 児童生徒が身に付けてきた母語での思考力を生かす
- ・ **ICT機器の活用** 検索、翻訳、そのほかのアプリケーションの活用
- ・ **先行学習** 学級担任や授業担当との連携が大切

2 実践発表 浜松市立江南中学校 教諭 園部真由美(外国人生徒指導担当)

○ 在籍学級での学びに向けて外国につながる児童生徒の背景と現状分析及び実践例

- ★ 外国人指導教育 = 「日本の未来を創る人財教育の最前線」  
 + 親の定住と勤労継続の間接的支援  
 + 人手不足の長期的補完

★ 「外国につながる児童生徒」の日常

バックグラウンド、経済社会的なバックグラウンド、アイデンティティの不安定さ…  
 「教師」と次元の異なる困難さ、国際水準とかけ離れた経済的困難さが存在



<実践例>

- ・ 母語翻訳 AI を活用した本音トーク、SC のアドバイスから見方が変化  
 → **母語での会話、バックグラウンドや成育歴からその子の本質をみとる**



生徒に接しながら、考え、気づき、見方を変化させる。  
 常に試行錯誤からの発見を。